

古渡城(名古屋市中区橘 2-8) (真宗大谷派名古屋別院)

古渡城（ふるわたりじょう）は、天文3年（1534年）、織田信秀により尾張国愛知郡（現・愛知県名古屋市中区）に築城された城。平城。天文17年（1548年）に廃城となった。

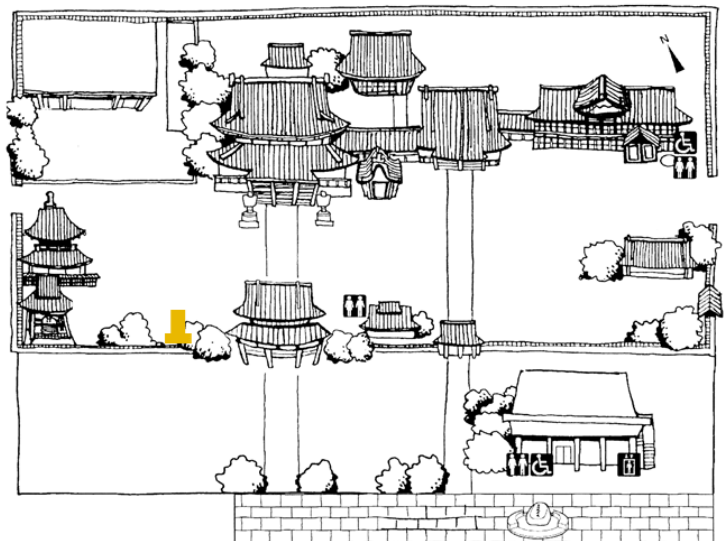
天文3年（1534年）、織田信秀が東南方に備えるために築城した城。信秀は今川氏豊から奪った那古野城を、嫡男織田信長（幼名・吉法師）に譲り、この城を拠点とした。

東西140m、南北100mの平城で、四方を二重の堀で囲まれていた。天文15年（1546年）、信長は古渡城にて13歳で元服する。天文17年（1548年）、美濃に侵攻した信秀の留守を狙い、清洲の守護代織田信友の家臣坂井大膳らが城下に攻め寄せ、この際に町は焼かれたが、落城はしなかった。同年、織田信秀は末森城を築いて移ったため、古渡城はわずか14年で廃城となった。遺構として、真宗大谷派名古屋別院敷地内にある古渡城跡碑と、古渡城の堀跡を利用した下茶屋公園（真宗大谷派名古屋別院に隣接）がある。

Wikipediaによる

古渡（ふるわたり）城跡案内板

織田信秀が天文三年（一五三四）築城したといわれる。信秀は、それまで今川氏豊から奪取した那古屋（なごや）城にいたが、その子信長に那古屋城を譲り、ここに移った。信長は、ここで天文十五年（一五四六）十三歳で元服したと伝えられる。城は東西一四〇メートル、南北一〇〇メートルの平城（ひらじろ）で、周囲に二重の堀を巡らしていたといわれる。天文十七年、信秀が末森城に移り廃城となった。 名古屋市教育委員会



名古屋別院